



※善了寺建て替えのため下記に移転しています

〒245-0053横浜市戸塚区上矢部町2471-48

電話・FAX 045-410-7307

E-mail: mail@zenryouji.jp <http://www.zenryouji.jp>

発行責任 善了寺 還る家とともに 9月担当：溝口

移転 その後…

暦の上ではもう秋…。ですが、まだまだ暑い日が続いております。

前号でもありましたが、善了寺デイサービス“還る家とともに”は移転いたしました。関係の皆様には色々ご迷惑をおかけし、また、多数のご助力を賜り、本当にありがとうございました。

移転してそろそろひと月が過ぎようとしています。慣れ親しんだ善了寺の境内や、デイサービスの環境から一転、閑静な住宅地での生活がやってきました。歌やゲームをワイワイとしているデイサービスを受け入れて下さっている地域の方々に深く感謝しております。室内の環境では今までの畳での生活を継続して頂きたいと、移転先事業所の奥の部屋に畳を敷きました。その結果段差ができてしまい、利用者の皆さんに気をつけて移動して頂かなければならない状況となってしまいました。段差部分を敷物等で少しでも改善しようと試みしていますが、そんなことをしていると、「ああ、今までのデイサービスは恵まれていたんだなあ…」とついつい考えてしまいます。



そんな状況ですが、時折、利用者やボランティアに訪れた方々より「ちょっと狭いけど(以前のデイサービスと)雰囲気似ている」「いいところだね」などとお話を頂くこともあり、「頑張って荷物を運んだ甲斐があった」「2年間がんばろう」と感じている今日この頃です。

以前私(溝口)が特別養護老人ホームに勤務している時、「慣れ親しんだ家具で部屋を一杯にし、居心地の良い居室の環境を整えよう」との話がありました。当時私達が働いていた棟は増床された直後で、皆さんの部屋は殺風景な居室がほとんどでした。そこで私は葉山出身のおばあちゃんの「アイ子さん」のためにご家族へこの話を持ちかけました。アイ子さんのお部屋も備え付けのタンスとベッドだけ、というさみしい部屋でした。後輩職員と二人でアイ子さんが以前暮らしていたお宅へお邪魔し、桐のタンスを施設まで運びました。焦げ茶色に変わり、とても味のある、歴史を感じるタンスを見た時、「これは喜んでもらえる」とワクワクしながら施設へ帰った事を覚えています。しかしタンスを部屋に設置した後のアイ子さん話した言葉は、想像とはかけ離れたものでした。「このタンスは私のものだけど…私を一生ここに閉じ込めておくつもりなのね?!」とポロポロと涙をこぼしながら訴えていました。特別養護老人ホームは無期限で生活できる種別の施設だったのでアイ子さんの言う事は合っていました…。アイ子さんは常々「葉山に帰りたい…」と話していました。その「帰りたい」という思いをかえりみず、帰れないという辛い現実をアイ子さんに突きつけただけの結果になってしまいました。

今、こうして移転後に以前のデイサービスと似ていると話して頂ける事は、たくさんの慣れ親しんだ家具、その他物品の力だと思いますが、その中でもやはり一番は“慣れ親しんだ顔”に囲まれているからではないかという思いに至りました。おなじみの関係が出来ていたからこそ、環境が変わって不安になってしまった時に、おなじみの方々の顔を見て、話していくうちに「ああここにいていいんだ」と思う事が出来るのではないのでしょうか。アイ子さんと私との間に足りなかったのは、おなじみの関係性だったに違いありません。善了寺デイサービスの恵まれているところは周囲の環境だけでなく、“おなじみの関係”があり、それが継続してゆけることだったのです。その関係が多様且つ深いものであるほど、多少の周囲の環境の変化があっても、その不安を乗り越えてゆける。この文章を書いている今、そのことに気付きました。環境づくりの一翼を担っている、ボランティアの皆さんにあらためて感謝しています。色々不便な事やご迷惑等をおかけしていると思いますが、これからも宜しくお願い致します。また、お気づきの点がございましたら、なんなりと、職員の方へお話し下さい。あれこれと試行錯誤を繰り返しながら、皆さんがよりよい環境で過ごせるデイサービスでありたいと思っています。そして、善了寺内だけでなく、地域のみなさんとも「おなじみの関係」が構築されるよう、日々努力していきたいと思っています。

溝口弘

～送迎のこと～

「還る家とともに」に入職して、早いもので3ヶ月が経ちました。おかげさまで、皆さんとも少しずつ顔馴染みになり、やりがいを感じながらお仕事をさせて頂いています。実は、入職するにあたり一番心配していたのが、送迎のことでした。免許を取って15年になるものの、私が普段車を運転する頻度は決して多くなく、行き先も、駅や、よく行くお店などに限られていました。(運転しなければならないのなら、デイサービスの仕事は私には難しいかも)と、及び腰になっていた私を、所長の三根さんをはじめスタッフの皆さんが、粘り強くサポートして下さいました。



～裏面へつづく～

～つづき～

おかげさまで、今ではデイで使っている車ならどれでも運転して送迎に行くまでになりました。半年前にはとても考えられなかったことで、人間変われば変わるものだと自分でも驚いています。見通しの悪い道の左右の安全を確認して下さるなど、ご家族の方にも多くを支えて頂き、有り難いことと感謝しています。行き帰りの車の中で、いい声で昔の流行歌を歌ってくれる方あり、“愛と平和”の尊さについて語ってくれる方あり、「昔、この辺はね・・・」と戸塚の昔の姿を伝えてくれる方ありで、私にとってもかけがえのない時間を過ごさせて頂いています。車での送迎に少しずつ慣れてきたとはいえ、油断は禁物。先輩スタッフの経験に基づくアドバイスを肝に銘じて、これからも初心を忘れることなく送迎及びデイの仕事に関わっていきたいと思っています。

石倉 幸子

村上照夫さん



デイサービスをご利用されていた村上照夫さんが7月14日に往生されました。

終末期であり病院が嫌いだっただお照さん(村上さん)の意思をご家族が汲み、

自宅での看取り介護を決めて一週間ほどたったある日、溝口さんと若ちゃん

と一緒に自宅にお見舞いに行きました。枕元で大好きだった東海林太郎の野崎小唄と名月赤城山を溝口さんのギター伴奏でみんなで唄ってきました。ホントは田端義夫のかえり船も唄う予定で日中にデイで練習していましたが、枕元で下顎呼吸をしているお照さんの様子を見ていたら、より体力を消耗させているようで歌う事が出来ませんでした。ボクたちが帰って一時間位たってお照さんは亡くなられました。

話は変わりますが、先日介護のセミナーで岐阜まで行ってきた際『大往生したけりや医療と関わるな』の著者であり医師の中村仁一さんの講演を伺う事が出来ました。そこでは「本来、自然な死は、安らかで穏やかなもの」であり、「(終末期の人間に)‘少しでも多く寄り添い声を掛ける’‘一人にしない、淋しい思いをさせない’‘好きな音楽を流し、写真や絵などを飾る’事などは穏やかな死の邪魔をしている」といったお話をされていました。

真逆な事をしてしまったなあ、と自己反省をしました。ただ本人に歌っていいか聞いてみた時、相槌をしてくれたように感じました。ご家族にも(歌っていいか)声を掛けたら喜んでくれました。一曲目の野崎小唄をうたっている時には一緒にいたお嬢さんが「お父さん笑ってるよ」と言ってくれました。自己満足の部分もあったかもしれませんが。何が良くても何が悪いのか、今の僕自身には分かりません。

ご家族は自宅で看取れたことをとても納得されています。ほんの少しではあるけど、その貴重な時間にボクたちが携われた事(2日に1回位お見舞いに行つて体位交換や水分補給等もお手伝いさせてもらっていました)は有り難いことだなあと感じています。

お照さんのお陰で田端義夫が好きになりました。ありがとうございます。

この場を借りて謹んでお悔やみ申し上げます。

三根周

編集後記



8月15日の総法要に富田富士也さんのお話を本堂で聴かせていただきました。先生から『還る家』というデイサービスの名前の一部を使わせて頂いた経緯があります。

講演の中で「あなたに『帰るハウス(建物)』でなくて『還るホーム』はありますか？」還るとは、いつでも、どこでも、ありのままの私を包んでくれる心の家、それは人であり、いろいろな関わりであるかもしれません。まさに、阿弥陀様のような存在だなと思います。そして、お寺のデイサービスとしての原点は、やはり『還る家』にあると改めて得心できました。開所して10年目に富田先生のお話を聞かしてもらえてよいご縁となりました。

坊

ボランティアさん

善了寺に関わってくださっている沢山の方々にデイサービスは日々支えられています。このたびの引越に際して皆さまにご協力頂きありがとうございます。あらためて感謝申し上げます。上矢部町でも引き続きどうぞよろしくお願いいたします。

中嶋芳江 秦野かねよ 安藤信子 竹中秀子 山下トキエ 西岡美都里 寺島美代 朝倉好子 別府与志子 濱崎芳子 市野和歌子 弓削福子 矢口和子 秦野雅子 米村正男 小寺久枝 江田峯子 中島雄子 村井ヒテ子 江尻伸子 鳥巢スエ子 牛島寛子 橋本淑子 長澤チヨ子 福寿貴美恵 犬塚照夫 松村節子 秦野宣子 大金スエ子 梅本忠男 小林ミエ 林ヨシ子 松田良子 森谷ミヨシ 山田ヒロ子 増村隆 穴山よしお 乾隆子 内田佐知子 砂川元枝 長岡綾子 吉高友子

敬称略